

第3章 圏域の中長期的な将来像（案）

1 圏域の将来像

青森圏域連携中枢都市では、人口減少とともに一層の高齢化の進展に伴い、圏域内での生産・消費などの経済活動の衰退や過疎化が進行する地域での福祉・教育など行政サービスの維持が困難となる恐れのある中、圏域に有する地域資源を生かしながら、将来にわたって持続可能で発展する圏域を目指して、令和2年3月に青森圏域連携中枢圏ビジョン」を策定し、5市町村が連携して、「圏域全体の経済成長のけん引」「高次の都市機能の集積・強化」「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」に取り組んできました。

「経済成長のけん引」については、各市町村で強みとなっている産業を生かしながら、起業・創業及び地域企業の成長による圏域全体の雇用創出、ロボット技術やICT技術を活用したスマート農業の普及促進、農業・漁業の担い手確保対策、圏域市町村と連携した特産品のPRや観光プロモーションの実施など、起業・創業に向けた取組や地域産業の活性化につながる取組を着実に進めてきました。

「高次の都市機能の集積・強化」や「生活関連機能サービスの向上」については、首都圏等からの移住や人材還流の促進、幅広い知見を有する大学との連携、むつ湾沿岸市町村や関係団体と一体となったむつ湾環境保全の活動、住み慣れた地域で安心して暮らせるための包括的な高齢者支援、子育て・教育支援の充実など、各市町村が連携・協力しながら、住民が安心して生活ができるよう取組を進めてきました。

このような中、人口減少・少子高齢化の加速、気候変動による気温・海水温の上昇による農業、水産業、生態系への深刻な影響、自然・災害の激甚化、デジタル化の進展など、私たちを取り巻く環境は、めまぐるしく変化しており、圏域市町村が一体となって、環境の変化に対応しながら、課題に取り組んでいく必要があります。

青森圏域は、陸奥湾や八甲田連峰、中山山脈の山々に囲まれた豊かな自然、全国的な知名度を誇る「陸奥湾ホタテ」などの農水産物、圏域に点在する世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」、世界に誇る「ねぶた祭」や江戸時代発祥の神事と伝えられる「荒馬まつり」などの伝統文化は、他の地域にはない財産です。

圏域が有する豊富な地域資源を活かしながら、各市町村の産業の成長・創業を支え、経済の活性化を図るとともに、子どもたちが健やかに育ち、多くの世代が生き生きと活躍し、安心して住み続けられる圏域を目指します。

うみ・まち・ひとを絆で結ぶ青森圏域